

機関番号：12201

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20700570

研究課題名（和文） 家庭科における性教育の現状と課題に関する研究

研究課題名（英文） The Present Situation and the Problem of Gender/Sexuality Education in Home Economics

研究代表者 良 香織 (USHITORA KAORI)

宇都宮大学・教育学部・講師

研究者番号：10459224

研究成果の概要（和文）：

本稿の目的は、家庭科の教育実践において、ジェンダー/セクシュアリティに関わる問題がどの領域・分野でどのように展開されているのかについて、課題を含め明らかにすることにある。教員（家庭科担当）を対象とした調査の結果、男女平等に関する教育は、「日常生活レベル」に重点が置いた内容が多く、性教育は主に「保育分野」で扱われていた。内容は、命の大切さを教える教師、生徒の性に関する現状に合わせて授業を組み立てる教師、ライフスタイルの一つとして性を教える家庭科教師に分けられた。また、一部の家庭科教師は多様なセクシュアリティや人権に関する内容は、家庭科で「現段階で扱える多様性の範囲」として捉えていることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study is to clarify the issue of gender/sexuality education being taught in home economics.

Results are as follows: Gender education is taught in the Daily Life level, however the content of this class is about cooperating in married life and family problems, rather than about more specific individual gender and social issues. Sexuality education is mainly taught in the Child Care field.

The conclusions are as follows: A teacher who teaches about the importance of life. A teacher who organizes the class according to students current states. A teacher who teaches it as one of the lifestyles.

The study shows that some teachers consider that the issues of the various sexuality and human rights themes is content dealt with in home economics at the present stage.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育学
キーワード：学校教育

1. 研究開始当初の背景

家庭科は、乳幼児期から高齢期にいたる、各ライフステージにおける生活課題を、さまざまな側面からとらえる中で、多様な生き方があることに気づき、その上で、子どもたちが自らのライフスタイルをどのように築いていけばよいかについて、考える教科である。つまり家庭科では、性教育をライフスタイルと結びつけることが可能であり、性教育を、より身近な問題として展開することができるのである。すでに家庭科教育の中でも、性教育に関連した分野として、保育分野ではリプロダクティブヘルス・ライツ（生と生殖に関する権利）や男性の育児参加の問題、家庭分野では結婚制度や家事労働の偏り、家族の多様性を扱った授業実践が紹介されている。しかし、家庭科教育全体において、性教育がどのように位置づけられているか、教師の聞き書き調査や具体的な授業内容からその実態を構造的に捉え、相対化した分析研究は極めて少ない。

また現在、性情報が氾濫する一方で、子どもたちは、自らの発達についての正しい知識を得る機会が奪われており、性感染症の増加など、セクシュアル・ヘルスの面からも深刻な状況に置かれている。このような現状にあって、子どもたちが家庭科教育を通して、どのように自らのセクシュアル・ヘルスに関する情報を得ているのか、そして指導に関わっている教師は、自らの価値観を含め、どのようにジェンダーおよびセクシュアリティを捉え、実践を展開しているのかについて、その問題点を含め検討していくことは、子どもたちのセクシュアリティ形成上、重要な意味があると捉えている。

2. 研究の目的

家庭科教育で性教育がどのように位置づけられているか、性教育実践の実態を明らかにし、その具体的課題と展望について分析・考察することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 家庭科の授業実践資料の分析と検討

家庭科教育における授業実践報告を中心に、家庭科教育の中で性教育がどのように位置づけられてきたか分析・検討する。

(2) 家庭科教師への聞き書き調査及び分析

家庭科教師を対象とした聞き書き調査を実施し、教材を含む授業実践の実態を明らかにする。

4. 研究成果

(1) 平成20年度

① 授業実践資料の分析

家庭科教育における授業実践報告を、日本家庭科教育学会、日本家政学会、家庭科教育研究者連盟の機関誌および学会誌から収集、現在、分析作業中である。これは学術分野と民間団体における実践報告を分析することにより、より相対的に実践報告の現状と課題を把握することを目的として実施している。

② 聞き書き調査実施に向けての予備調査

平成21年度の聞き書き調査に先立ち、1の作業経過を基に質問項目を作成し、家庭科教員4名を対象に予備調査を実施した。それを踏まえ、質問項目の内容を調整した。4名は現職の教員2名、元現職の教員2名とした。聞き書き調査を具体的にどのように進めていけば、性教育実践を進める上での課題を明らかにしていくことができるかを明確にすることができ

た。

③教科書分析

現行家庭科教科書におけるセクシュアリティの記載を分析し、7月29日に開催されたI H F E/国際家政学会（スイス）にてその成果を報告した。教科書会社によって記述にばらつきがあるが、家庭科では、生活者としての視点から性教育を実践することが可能であることが明らかとなった。

④アジアの家庭科教材の収集

8月22日～25日にかけて、韓国での性教育実践に関わりのある教育機関、教員と交流し、性教育のテキストや家庭科の教科書を収集、分析作業中である。

現段階で明らかにされていることは、韓国の教科書では、ライフステージに関する部分、保育分野等に性教育に関連した項目が含まれている点である。しかし性の多様性を含むライフスタイルの多様性に関する記述は極めて少ない。

また、保育分野では妊娠の過程や避妊具に関する具体的な記述がある。教科書に比較に関しては、今回の収集教材の数が限られていることに加え、韓国と日本における家庭科の位置づけについて、その共通点と違いを明確にする必要がある。

（2）平成21年度

①聞き書き調査の実施

平成20年度の予備調査をふまえ、家庭科教員を対象に聞き書き調査を実施した。性教育は主に「保育分野」で扱われていた。内容は命の大切さを教える教師、生徒の性に関する現状に合わせて授業を組み立てる教師、ライフスタイルの一つとして性を教える家庭科教師に分けられた。良が平成16年～17年に実施した量的・質的調査では、多くの家庭科教師は多様なセクシュアリティや人権に関する内容は、家庭科で「現段階で扱える多様性の範囲」として捉えていないことが明らかにさ

れているが、今回の調査ではいずれの家庭科教員も多様性の範囲として捉えていた。これについては教員間の学習経験、教員養成課程における学びの有無という視点から分析作業中である。

また、家庭科教員は保育分野に限らず、あらゆる科目において性教育を実施している教科内のどの分野で授業を試みているのか、実践にいたる過程等を明確にすることができた。

②聞き書き調査結果の報告

家庭科において、性教育、男女平等に関する教育実践がどのように展開されているかについて、その課題をふくめ、分析した。8月29日に開催された日本教育学会にてその成果を報告した。

（3）平成22年度

①聞き書き調査の継続実施

平成21年度に引き続き、家庭科教員を対象に聞き書き調査を実施した。家庭科教員が教科内のどの分野で授業を試みているのか、実践にいたる過程について、スクリプト分析を継続している。

②研究成果の還元

オーストラリアの教員向け指導書（翻訳本）の解説として本研究で得た知見をまとめ、掲載した。また、高校、大学の教員、研究者とともに、中学～高校生、大学生を対象とした性教育テキストを作成中である。

③量的調査との連携

聞き書き調査を実施した中で、家庭科教員が性教育として扱っている/扱わないが分かれる特徴的な項目があることが明らかにされたが、その中でも共通して見られた項目（事実婚、法律婚、同性婚、コレクティブ・ハウス、家事の協力、育児の協力、女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法、子ども

もの権利条約、妊娠の仕組み、命の大切さ、産まない選択、性感染症、HIV/AIDS、DV（ドメスティック・バイレンス）、DV防止法、デートDV、避妊、多様な性、男性の仕事に関する問題（働きすぎ、過労死など）、女性の仕事に関する問題（M字型曲線、賃金格差など）、先生の結婚や子育てに関する経験談）について、高校生、大学生を対象とした量的調査を実施、分析作業中である。今後は聞き書き調査と合わせて分析、検討していく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計3件）

- ① 良香織ほか3名、高校生のジェンダー平等意識と将来観に関する調査研究：共学進学校・別学進学校・職業科高校の比較を通して、女子栄養大学紀要、査読有、41、2011年、77-87p
- ② 良香織ほか3名、The Actual Situation of Sexuality Education in Japan and its Problems：Fact-finding for teachers interested in Sexuality Education、埼玉大学紀要、教育学部、査読無、60(1)、2011年、9-22p
- ③ 良香織、家庭科におけるジェンダー/セクシュアリティに関わる教育実践の現状と課題—高校生と家庭科教師を対象とした調査から—、日本家庭科教育学会誌、査読有、53(2)、2010年、82-91p

〔学会発表〕（計3件）

- ① 良香織、家庭科におけるジェンダー/セクシュアリティ教育の現状と課題—高校生と家庭科教師の調査から—、日本教育学会、2009年8月29日、東京大学（東京、日本）
- ② 良香織、田代美江子、渡辺大輔、日本における性教育の実態—性教育に関心のある教員を対象とした実践調査—、日本教育学会、2009年8月29日、東京大学（東京、日本）

- ③ 良香織、小清水貴子、How to teach high school students about sexuality and life in home economics education.、国際家政学会、2008年7月29日、スイス（ルツェルン）

〔図書〕（計3件）

- ① Lori Beckett編、監訳：橋本紀子、訳：良香織、小宮明彦ほか2名、新科学出版社、みんな大切！—多様な性と教育、2011年、195p
- ② 良香織、宇津野花陽、小口恵巳子、大風印刷、和田典子旧蔵資料目録、2009年、227p
- ③ 家庭科の授業を創る会（良香織ほか12名）、教育図書、とことん家庭科：明日につなげる授業実践、2009年、174p

6. 研究組織

研究代表者

良香織 (USHITORA KAORI)

宇都宮大学・教育学部・講師

研究者番号：10459224